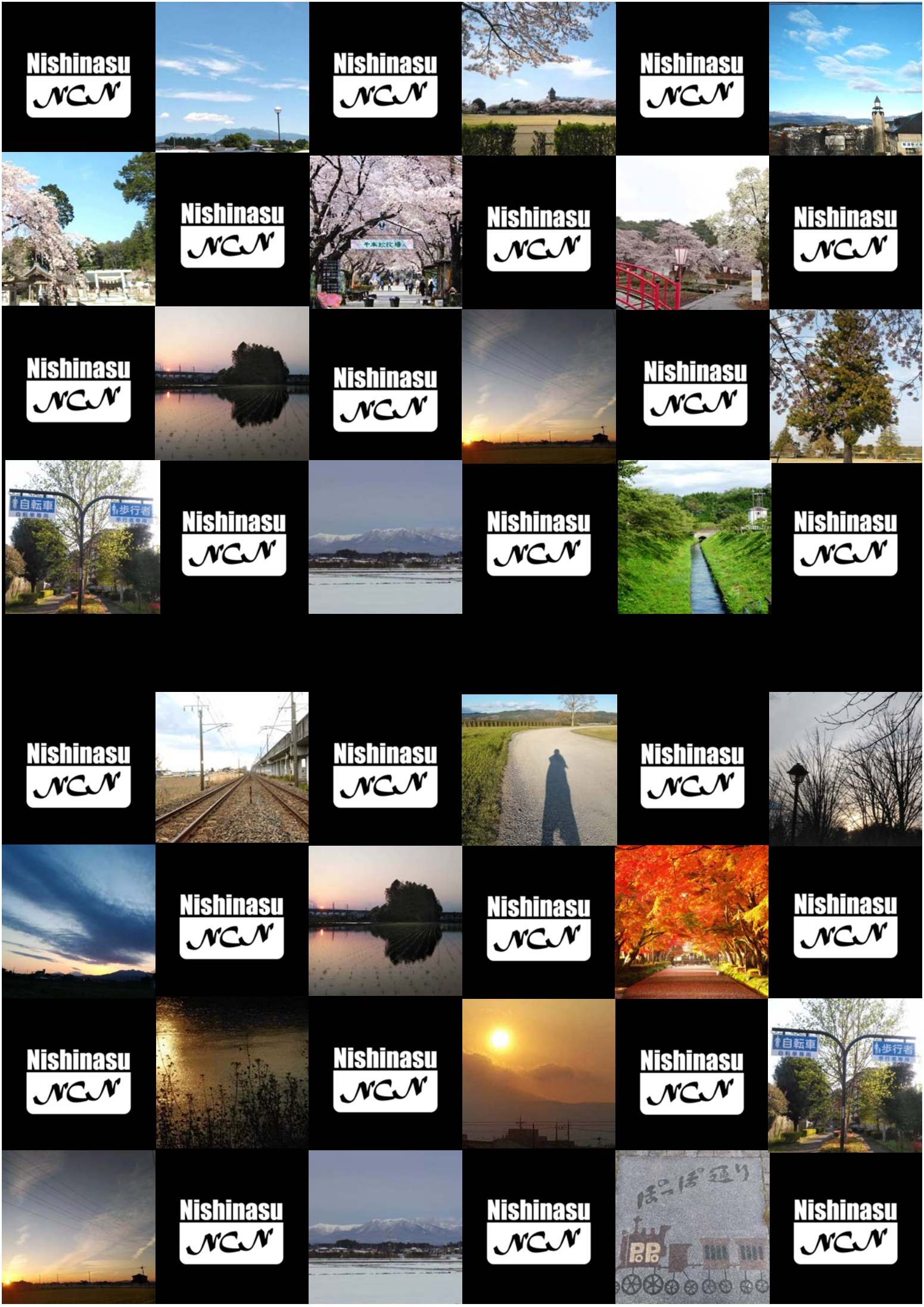


Nishina



発刊によせて

幸福でありたいという願いは、どんな時代であっても万国共通と思われる。

「幸福」の価値観は人によって大きく異なっているかもしれないが、健康や長寿は幸福であることの最も重要な基礎であり、そのうえで、安全で住み慣れた地域で安心して自分らしい暮らしを送りたいと思うことは、人間として当然のことであると思われる。

一方、20世紀以降の医学の進歩は目覚ましく、特に先進国においては死亡率の減少と寿命の著明な延伸がもたらされ、結果として全世界的に人口構成の高齢化が爆発的に進行中である。近い将来に訪れる「多死社会」は、図らずも医療・福祉領域における「全人的医療」の重要性を再認識させているが、人的・物的資源は極めて限られており、我が国の医療・福祉の骨格に大きな変革が必要とされている。

対象となる一人ひとりの地域背景や個人としての多様性を考慮し、治療だけでなく適切なケアを提供していくために、医療・福祉の多職種によるチーム医療が重要であるとされてきた。それに加えて、地域包括ケアシステムの導入によって「自助」と「互助」が強調され、患者本人と地域社会を巻き込んだ、進化した「チーム」による取り組みが必要と考えられる。住民を中心とした全ての関係者が「我が事」として生活課題に「丸ごと」対応する社会を目指す「地域共生社会の実現」が議論されているが、同じ指向性を持った取り組みであろう。

西那須野地区の地域ケア会議として平成29年に発足した「にしなすケアネット」であるが、具体的な事例を対象にして人間として抱える個別の問題から我が国の将来に関わるような提言まで、幅広く議論を重ねてきた。当初から住民が中心となって参加する先見的なスタイルが維持され、多職種連携に必要な、参加者の平等で水平的な関係性と外部の地域や活動に対して開放的であったことが、活動が形骸化することなく継続されている理由のひとつであるように思う。また、議論だけにとどまらず、発展性のある具体的な地域活動の立ち上げに結びついていることも重要な成果である。

にしなすケアネットはこの3月に20回を迎えた。西那須野は那須疎水の歴史にみられるように、開拓精神に富んだ地域であるという。これまで行われた議論や取り組みを実り多いものにしたのは企画運営委員の努力だけではない。レクチャーをして頂いた専門職の方々、渡辺美知太郎市長をはじめ行政の方々、グループワークに参加していただいた全ての参加者などの、西那須野に対する熱い思いであると考えている。この場をお借りして御礼を申し上げます。

にしなすケアネット 企画運営委員
柴 信行（国際医療福祉大学病院）

はじめに

平成30年4月現在、那須塩原市の高齢化率は約26%で、今後も高齢化率の上昇が見込まれます。団塊の世代（昭和22年から昭和24年生まれの世代）が75歳以上となる、令和7年には、30%を超えるとの予想もあります。また、現在65歳以上の人のうち約14%が介護認定を受けており、今後も要介護（要支援）認定者数は増加傾向にあると推測されます。那須塩原市では高齢者が可能な限り住み慣れた地域で、自立した生活を営むことができるよう、住まい・医療・介護予防・生活支援が一体的に提供される「地域包括ケアシステム」の構築を目指しており、その取り組みの一つに「地域ケア会議」があります。

地域ケア会議は、個別事例を通して支援の充実とそれを支える地域の基盤整備を同時に進め、誰もが安心して生活できる地域の実現に向けた会議です。地域に何が足りないかを話し合い、どのようなサービス・活動があれば、より住みやすい地域となるのかを考えることも地域ケア会議の目指すところとなっています。

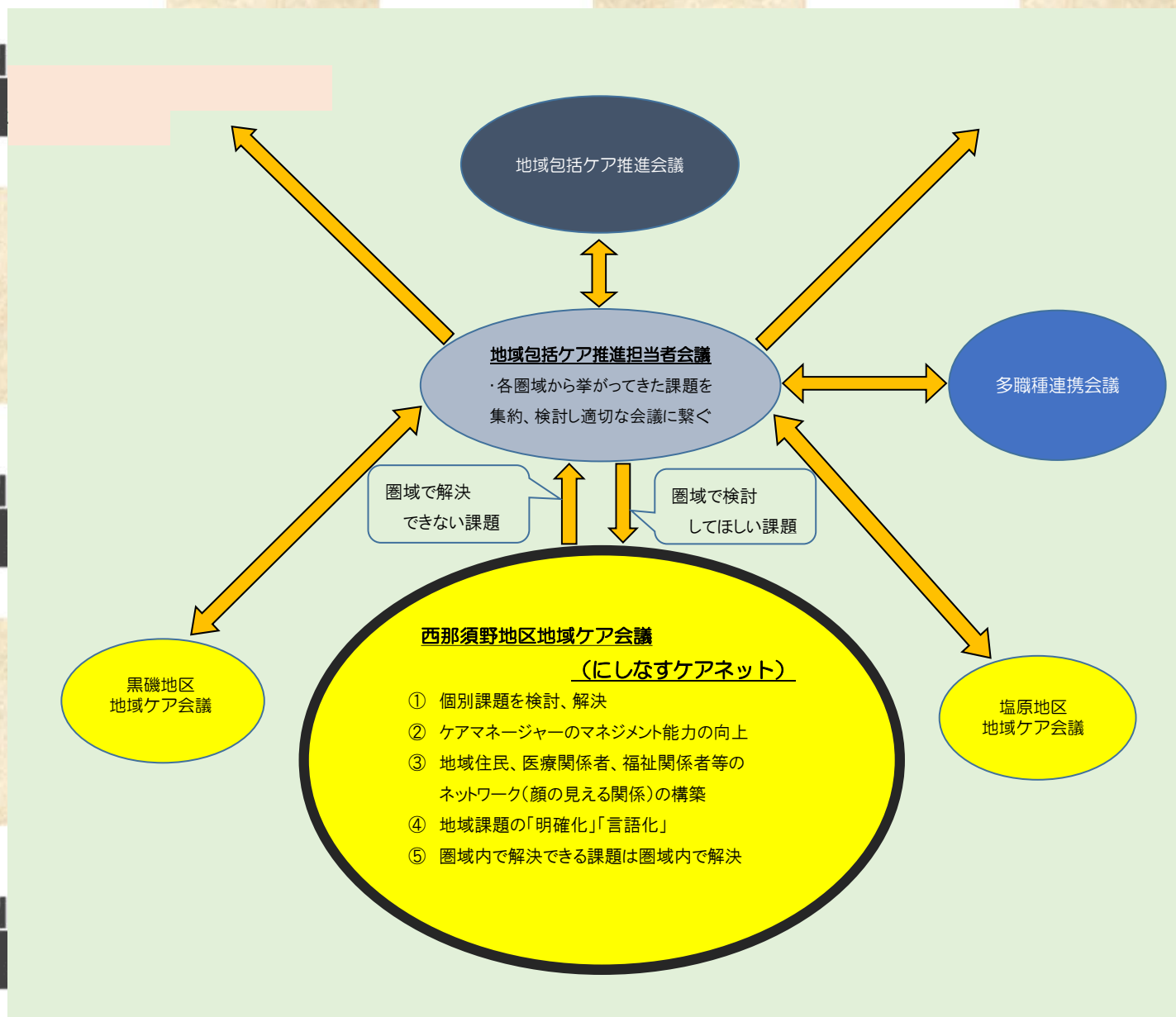
西那須野地区では平成29年8月24日に地域ケア会議である「にしなすケアネット」の第1回が開催されました。「にしなすケアネット」では、地域から自治会役員・民生委員・福祉的な活動をしている方、行政、医療・介護・障害・児童分野の事業所等の多種多様な出席者が、事例などを通じて地域課題についての話し合いや勉強会を行っています。

また、「にしなすケアネット」は①個別課題の検討、解決②ケアマネジャーのマネジメントの向上③地域住民、医療関係者、福祉関係者等のネットワーク（顔の見える関係）の構築④地域課題の明確化・言語化⑤圏域内で解決できる課題は圏域内で解決、の5つの目的を掲げ、地域共生社会の「我が事、丸ごと」をスローガンに高齢者・障害者・子供関係等の問題にも取り組み活動しています。

そして、令和2年3月19日には第20回「にしなすケアネット」を実施いたしました。今回、20回目を迎えるにあたり「にしなすケアネット」の軌跡や各事例・派生してできた取り組みを一冊にまとめる運びとなりました。多くの方々のご尽力とご参加・ご協力があったることと心から感謝いたします。今後も引き続き、「にしなすケアネット」の取り組みへのご理解・ご参画をいただきますようお願い申し上げます。

令和2年3月　にしなすケアネット企画運営委員会

那須塩原市における地域ケア会議







第1回
西那須野の歴史
自分の組織・自分の地域で何ができるか？

開催の歩み

- 第1回 平成29年8月24日
『西那須野の歴史、地域特性/自分の組織・自分の地域で何ができるか』 P7
- 第2回 平成29年9月28日
『高齢者と障害者の二人暮らしの親子が自分らしく生活するためには』 P8
- 第3回 平成29年10月26日
『高齢者分野制度と障害者分野制度の勉強会』 P8
- 第4回 平成29年11月16日
『若年性認知症の方が地域で暮らすために』 P9
- 第5回 平成29年12月21日
『気付いてますか子どもの貧困』 P10
- 第6回 平成30年1月25日
『制度のはざまにいる方の退院支援』 P10
- 第7回 平成30年2月22日
『認知症で困惑する家族の支援』 P11
- 第8回 平成30年3月22日
『理想の地域社会を目指して』 P11.P12
- 第9回 平成30年5月31日
『精神障害をお持ちの方が地域で生活するために』 P13
- 第10回 平成30年7月26日
『生活困窮者が自立した生活続けるために』 P13
- 第11回 平成30年9月27日
『医療的ケアを必要とする子どもが地域で生活するために』 P14
- 第12回 平成30年11月22日
『高齢者の運転免許返納問題を考える』 P14
- 第13回 平成31年1月24日
『在宅看取りの現状を考える』 P15
- 第14回 平成31年3月28日
『空き家問題を考える』 P15
- 第15回 令和元年5月30日
『認知症で徘徊を繰り返す高齢者』 P16
- 第16回 令和元年7月25日
『子どもの貧困について』 P16
- 第17回 令和元年9月26日
『老老介護について』 P17
- 第18回 令和元年11月28日
『交通問題について』 P17
- 第19回 令和2年1月23日
『知的障害・発達障害について』 P18
- 第20回 令和2年3月19日
新型コロナウイルスの感染拡大を防止するため中止となりました

第1回 平成29年8月24日

『西那須野の歴史、地域特性/自分の組織・自分の地域で何ができるか』



座長：国際医療福祉大学病院
柴 信行氏

西那須野の歴史、地域特性について

那須塩原市社会福祉協議会 中村 裕二氏



- 1884年(明治17年)
新陸羽街道(国道4号線) 開通
三島通庸、**塩原街道**を開通させる
- 1885年(明治18年)
那須疏水完成
- 1886年(明治19年)
宇都宮-黒磯間の**鉄道**完成



❖北東部と南西部に**農業地帯**が広がる。

❖冬は気温低いが、
大雪は年に2～3回程度。

春先に**強風**がある。

夏場は**雷**が多い。



にしなすケアネットについて

地域包括支援センターとちのみ 上新 達也氏



にしなすケアネット

- ①個別課題を検討、解決
- ②ケアマネジャーのマネジメント能力の向上
- ③地域住民、医療関係者、福祉関係者等のネットワーク(顔の見える関係)の構築
- ④地域課題の「明確化」「言語化」
- ⑤圏域内で解決できる課題は圏域内で解決

にしなすケアネットでは
高齢者だけでなく
障害者関係、子供関係等の問題も

「我が事、丸ごと」

に考えていきたいと思っています。



市民活動報告

「地域住民助け合い事業地域づくり型介護予防」について

西三島自治会会長 橋本 秀晴氏



地域住民助け合い事業

1. めざすもの

- ・地域全体で互いに支え合う仕組みづくり



- ・誰もが住み慣れた地域で、自分らしく安心して暮らせるまち



地域づくり型介護予防事業

いきいき百歳体操

・めざすもの

- ・健康寿命延伸
- ・ひとづくり
- ・地域再生



グループワーク「自分の組織・自分の地域で何ができるか？」



参加者の思い

- ・多世代が交流できる地域の居場所を作りたい。
- ・普段の生活の中で心配な人を見守りたい。
- ・生活困窮者やひとり親家庭のために雇用を検討したい。
- ・デイサービスの車を利用して、買い物等のお出かけ支援を検討したい。



第2回 平成29年9月28日

『高齢者と障害者の二人暮らしの親子が自分らしく生活するためには』

「サービス導入を望まない、高齢者Aさんと障害者の長男が暮らす事例」

地域包括支援センターとちのみ 遠藤 晃子氏



参加者の思い

- ・介護者の会、当事者の会など活動を、地域住民や専門職にもっと知ってもらう。
- ・高齢者と障害者が一緒に過ごせる地域の居場所があるといい。
- ・専門職も他分野の制度について理解が不十分なため勉強会を開催してはどうか。
- ・配食サービスを障がい者の方も利用できればよい。

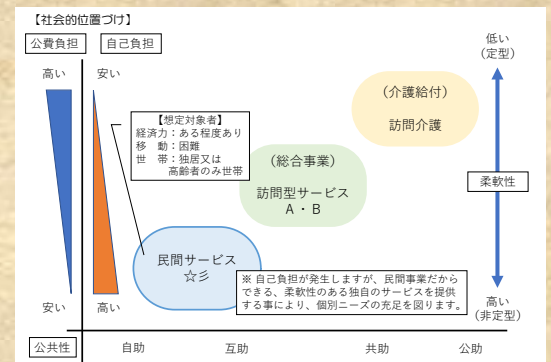


第3回 平成29年10月26日

『高齢者分野制度と障害者分野制度の勉強会』



障害者分野の説明
株式会社テトテ
大高 久尚氏



高齢者分野の説明
地域包括支援センターとちのみ
上新 達也氏



参加者の思い

- ・歩いて行けるところに、高齢者や障害者が地域で役割をもって社会参加できる場所があるといい。
- ・心のバリアフリー、差別をなくすことが大切。
- ・ふれあい・交流の場をもっと増やす。



第4回 平成29年11月16日

『若年性認知症の方が地域で暮らすために』



若年性認知症(前頭側頭葉型認知症)について

国際医療福祉大学病院

神経内科医師 橋本 律夫氏



「若年性認知症で一人暮らしの男性の事例」

西部地域包括支援センター

菊地 由紀氏



参加者の思い

- ・ 認知症の当事者の会や介護者の会があるといい。
- ・ 地域住民への病気・制度の理解促進（認知症サポーター養成講座の実施）
- ・ 配食サービスを障がい者まで拡大して欲しい。
- ・ 農福連携の理解の促進。
- ・ 地域住民と障害者の交流の場が少ない。
- ・ 専門職と住民、地域資源（スーパー等）を含めた話し合いを行う。
- ・ 小規模多機能施設の認知症リハビリのスキルの向上
- ・ 理学、作業、言語の各療法士は地域に出よう！

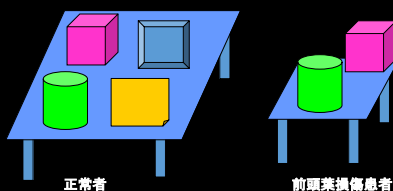


FTD
(前頭側頭葉型認知症)

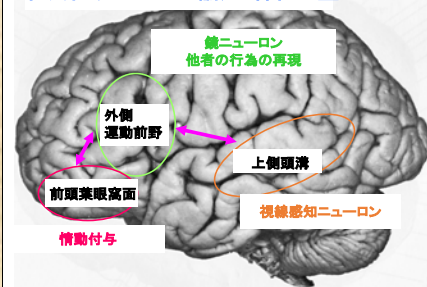
- FTD-BV
行動障害型
- FTD-PNPA
進行性失語症型
- FTD-SD
意味記憶障害型

ワーキングメモリ=机の上に置かれた材料で物を作る作業

机の広さ=前頭葉背外側部の機能的容量



社会性(こころの理論)の神経基盤



にしなすケアネットに参加して

私はボランティアや高齢者の居場所づくりなど地域活動を行っています。少子高齢社会でさまざまな課題があるなか、にしなすケアネットに大勢の方が参加し話し合いができることは、素晴らしいことだと思っています。私は団塊の世代ですが、私たちが75歳を迎える2025年に向けて、助け合い・支え合う地域づくりが重要になると感じています。にしなすケアネットが地域の課題に取り組み、活動を通してより住みやすい街になっていけば良いと思います。これからもさまざまな活動に参加して、まちづくりに貢献したいと考えています。

第5回 平成29年12月21日
『気付いてますか子どもの貧困』



子どもたちとの14年の見守りから
NPO法人キッズシェルター
森田 野百合氏



子ども虐待対応院内組織(CAPS)
国際医療福祉大学病院
小児科医師 門田 行史氏

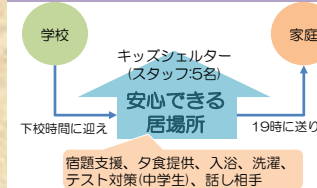
必要な時に必要な支援が届くように
こんなことをしています

- ①訪問型家族支援
- ②子どもフードバンク
- ③お昼ご飯付き子どもの居場所
- ④要支援児童放課後支援事業

- ①②③は自主事業（ボランティア）
- ④那須塩原市の委託事業

那須塩原市委託事業

④要支援児童放課後支援事業



嬉しかった大人の存在

朝寝坊して、通学班は行ってしまったが、走って登校していると、交差点に立っているおじちゃん「頑張ってきたね」と待ってくれた。

近くのアパートの一人暮らしのおばちゃんが、「風邪引かないけ。」と言って贈ってくれるんだ。

地域の大人と子どもたちの繋がりが、喜びにつながる事がわかった。

グループワーク「子どもの貧困に対してできること」



参加者の思い

- ・普段から地域との顔の見える関係づくりが必要。
- ・高齢者施設で子ども食堂の実施、高齢者施設のお祭りに子どもを招待する。
- ・「ふるさと納税」を子どもの支援に回してほしい。
- ・深夜働いている親のために、深夜に子どもを預かる制度がほしい。

第6回 平成30年1月25日
『制度のはざまにいる方の退院支援』



「一人暮らしの男性で保証人がいない、
62歳のため制度が使えない事例」

国際医療福祉大学病院
医療連携室 吉成 和子氏



グループワーク「退院後、地域で孤立しないためには」

参加者の思い

- ・病院と地域（自治会、民生委員、大家など）が連携しながら見守りを行う。
- ・保証に関するいろいろな制度の活用、もしくは新たに構築する。
- ・本人の話をよく聞き意向を確認する。本人とじっくり向き合う。
- ・「年金酒場」を西那須野でも行い、本人と地域のつながりを作る。



第7回 平成30年2月22日
『認知症で困惑する家族の支援』



寸劇による事例発表

「認知症で困惑する家族と地域」
にしなすケアネット企画運営委員



地域住民助け合い事業について
那須塩原市社会福祉協議会 柴田 直也氏

グループワーク「退院後、地域で孤立しないためには」



参加者の思い

- ・ 認知症のオープン化を促進すれば、地域住民の理解や関わりも強化される。
- ・ 認知症の方が初期段階で専門職と関われる仕組みづくりが必要。
- ・ 認知症の方の居場所があれば良い。軽微な作業ができればなお良い。
- ・ QRコード、携帯電話のGPSを活用して認知症の方も安心して生活できるようにしたい。



第8回 平成30年3月22日
『理想の地域社会を目指して』



講演「理想の地域社会を目指して」

講師：国際医療福祉大学
医療福祉マネジメント学科
准教授 大石 剛史氏



グループワーク「西那須野をどんな
まちにしたいですか？」



- ・ にしなすケアネットが目指すべき地域像の【5つの柱】となる意見が多数ありました。
※次ページ参照



にしなすの 目指すべき地域像 五つの柱

にしなすの 目指すべき地域像 五つの柱

- ① 「支え合い」 がさかなまち にしなす
- ② 「役割」 があるまち にしなす
- ③ 「交流」 がさかなまち にしなす
- ④ 「にぎわい」 があるまち にしなす
- ⑤ 「こども」 が元気なまち にしなす



第9回 平成30年5月31日 『精神障害をお持ちの方が地域で生活するために』

「日本における精神疾患の現状について」
「精神科病院に20年入院するAさんの支援」



地域生活支援センターゆずり葉
遠藤 真史氏

日本の精神科病院の病床数は
何床あるでしょう？

1. 0 床
2. 3, 400床
3. 24, 000床
4. 240, 000床
5. 340, 000床

日本全体では156万床

私たちがめざしているもの

支援が、「まち」の中に溶け込み、対象者も私達も「まち」が抱える課題を共有し、「まち」の一員として、「まち」作りに参画できるような動き（仕掛け作り）を続けていく（作動し続ける）！

那須フロンティアのKey Word
障がいの有無にかかわらずメンタル・ヘルスを
中心とした『豊かなまち作り』への参画

“精神障がい者に対応した地域社会”
という視点ではなく
“誰にとっても大切なメンタルヘルスに対応した地域社会”
をめざす！

グループワーク「住まいの問題、仕事の問題、地域の見守り」

参加者の思い

- ・保証人がいなくても住居を確保できる体制が必要。
- ・農福連携等を進め、働く場を確保していく。
- ・専門職と地域住民が連携できるよう、地域で受け入れる環境を整えていくことが大切。
- ・地域における啓蒙、教育活動が不可欠。



第10回 平成30年7月26日 『生活困窮者が自立した生活をするために』



「生活困窮者自立支援事業について」

- ①犯罪歴のある相談者
 - ②家庭内での問題
 - ③社会に参加できない若者
- 那須塩原市社会福祉協議会
江連 高章氏



参加者の思い

- ・刑務所と地域の連携を考える必要がある。
- ・地域での受け皿を考えていく必要がある。
- ・中間就労場所や就労支援をする団体があると良い。
- ・夫が家庭で役割を持てるよう支援する。
子どもの居場所を地域で考える。
- ・必要な情報が必要な方に手に届くようスマホを活用するなど、周知方法を考える。
- ・地域で学習支援できる場や、こども食堂を作り負の連鎖を断ち切る。



第11回 平成30年9月27日
『医療的ケアを必要とする子どもが地域で生活するために』

「医療的ケアを必要とする子どもの現状」

訪問看護ステーションゆりの木
三浦 知津子氏

「医療的ケアが必要な子どもの生活」

那須塩原市社会福祉協議会
磯 睦美氏

「デイサポート ふれじーる 設立経緯について」

合同会社あかりプロジェクト
高橋 守氏



参加者の思い

- ・どんな言葉をかければいいのかわからないけど、困っていたら手を貸したいと思う。
- ・親の負担軽減のためにレスパイト（家族、特に母親の休養、家庭の事情による一時預かり）先を増やすべき。
- ・病院に車いすのお子さんが来られる環境整備をすることで周囲に存在を知ってもらえるのではないかな。

第12回 平成30年11月22日
『高齢者の運転免許返納問題を考える』

運転免許の自主返納について

栃木県那須塩原警察署交通総務課 根岸 俊樹氏

ゆーバス・ゆータクについて

那須塩原市生活課交通対策係 高野 幸大氏
地域包括支援センターとちのみ 遠藤 晃子氏



参加者の思い

- ・バスの停留所まで歩くのも困難な高齢者もいるので、ドアtoドアの公共交通が必要。
- ・地域の中に公共交通以外で、買い物・通院などを支援する仕組みづくりが必要。
- ・1回の会議ではまとまりきらないので、足問題検討会を立ち上げてはどうか。

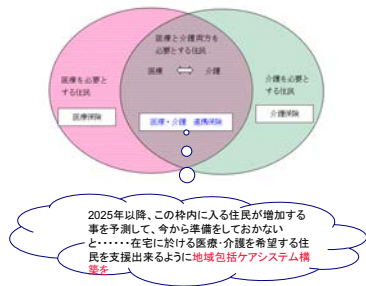
第13回 平成31年1月24日 『在宅看取りの現状を考える』

「在宅看取りの現状について」

那須地区在宅医療・介護連携支援センター
手塚 美恵子氏
那須塩原市社会福祉協議会
介護支援専門員 井出 友子氏



これから・・・超高齢化社会がやってくる



在宅での医療・介護を受けたい・・・

本人の意思表示と覚悟(選択)
*「心・身・意・経済・安心・養・金」
*「心・身・意・経済・安心・養・金」
家族に伝え、理解を得る
家族の心構えと覚悟(努力)
経済的負担(保険対象外)
時間的制約
生活のリズムの変化

社会資源が有る
訪問診療可能な医師
訪問看護師
在宅対応薬剤師
ホームヘルパー
ケアマネジャー
受け入れる病院
施設等の療養環境
専門職種の連携環境
地域住民の協力環境

個別対応が必要(点在)だが24時間対応は難しい → 家族が居ても居なくても同じ
看取り目的 療養目的による対応の違い
入院退院の繰り返し

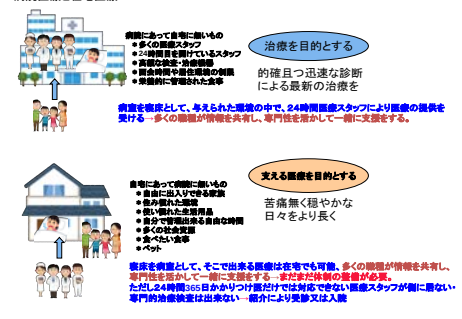


参加者の思い

- ・ 本人が元気なうちに延命について など家族と話し合っておく。
- ・ 在宅看取りの体制や現状をもっと市民に知ってもらうことが重要。



病院医療と在宅医療



第14回 平成31年3月28日 『空き家問題を考える』

地域の空き家事例

三区町自治会長
山本 幸雄氏

市の空き家の現状及び制度説明

那須塩原市都市整備課住宅係長
伊藤 良司氏

空き店舗利用について(チャレンジシップ事業)
西那須野商工会 主査・松谷 信幸氏



日本の現状は！

* 総務省 平成25年度の調査によると
全国約 720万戸の高齢者住宅があり4軒に1戸が
一人暮らしと夫婦二人暮らし。(空き家予備軍)

↓

空き家は年々増加傾向にあり、2030年では3軒に1軒が
空き家になると、言われています。

↓

空き家問題は所有者や国にとっても深刻な問題！



* 事例として

持ち主が亡くなり相続人いない場合、地域の弁護士や
行政書士が立会人となり遺品整理しますが費用は行政負担
となります。私もこのようなケースに立ち会ったことが
ありますが本当に大変でした。

“最後に！”

“住民ひとりひとり”が
住まいの終活を真剣に
取り組むことが大切だと思います！



参加者の思い

- ・ 空き家になる前から地域で関わりを持つ、近隣住民との関係づくりが大切。
- ・ エンディングノート(住まいの終活)に空き家になったときのことを残しておく。



第15回 令和元年5月30日
『認知症で徘徊を繰り返す高齢者』



ほっと乃木ケアセンター
西原 勇氏



こだま社会福祉士事務所
児玉 幸弘氏



参加者の思い

- ・警察や行政、地域の商店、学校などメールを活用した情報提供・ネットワークをつくる。
- ・地域住民に認知症の理解を深めてもらうための活動（自治会での講習会、徘徊模擬訓練）の推進。
- ・認知症サポーター養成講座受講者のフォローアップも必要。
- ・家族に病気を正しく理解してもらうための支援が必要。



第16回 令和元年7月25日
『子どもの貧困について』

『子どもの貧困～わたしたちにできること～』



那須塩原市の貧困に関する取組み等
事例①「就学前の児童がいる世帯」
子育て総合センター

所長・菊池 紀男氏
事例②「小中学生がいる世帯」
学校教育課スクールソーシャルワーカー
長島 桂子氏

那須塩原市の学習支援について
県北シニアの会 鈴木 博氏



グループワーク

- 事例①「母の自立を目指すために地域は
どんな支援・援助ができるか」
事例②「母親が職場や地域・学校で受け入れら
れるにはどのような支援が必要か」
「この家庭で子どもたちが将来的な
希望を見出せるためにはどのような
支援が必要か」



参加者の思い

- ・まずは母親が地域の中に信頼できる関係性を作る（子育てサロン、家庭相談員、保健師、ファミリーサポートセンター、公民館の子育て学級など）。
- ・母親の就職について、障害者制度での就労支援を受ける。また、生活面でも自治会・学校の行事に参加できるようなサポートも必要。

第17回 令和元年9月26日 『老老介護について』



「那須塩原市の老老介護の現状について」

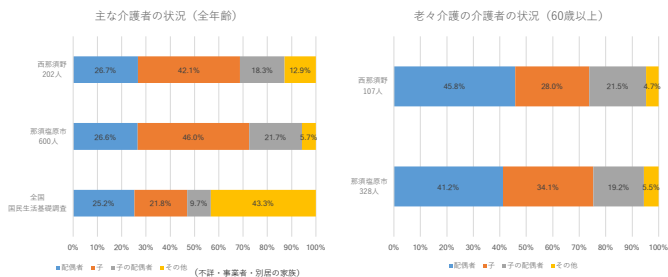
那須塩原市高齢福祉課 阿久津 梢氏

「老老介護：高齢者夫婦で妻の介護をする世帯」

那須順天荘居宅介護支援事業所 平山 武規氏

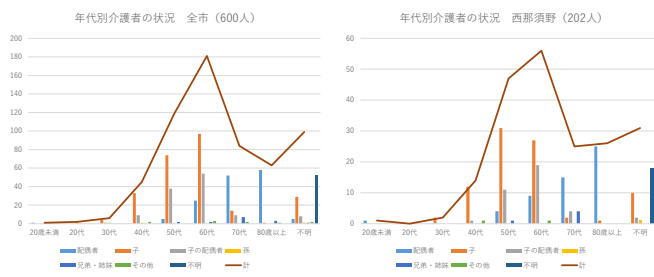


主な介護者の状況



年代別介護者の状況

誰が介護しているか年齢別に集計すると、西那須野は市全体に比べ、50代の子が親を介護している方と、80歳以上で配偶者を介護している方が多い



グループワーク

「この夫婦が地域から孤立しないためには？」 「家族(特に夫)に対してどのような支援ができるか？」

参加者の思い

- ・介護者の負担軽減のために買い物ボランティアや話を聞いてくれる傾聴ボランティアがいるといい。
- ・地域の中にケアラズカフェや男性介護者の会があるといい。
- ・年代などによってさまざまな価値観があるサービス事業の意識改革が必要ではないか。
- ・病院の場所を活用した家族や当事者の会、料理教室などがあるといい。



第18回 令和元年11月28日 『交通問題について』



ワールドカフェによるグループワーク

交通問題の課題について高齢者と障害者の視点からまとめたものを紹介したあと、ワールドカフェスタイルでの話し合いを行い、課題や情報を共有しました。

参加者の思い

- ・交通問題は地域の最重要課題の1つ。ケアネットの原点として、まとめたうえで行政に政策提言すべきだと思う。
- ・交通に必要なゆーバス・ゆータクがもう少しスムーズに利用できると良い。
- ・人が集える場所を多く作れば良いと思う。
- ・需要把握＋サービス→マッチング



第19回 令和2年1月23日
『知的障害・発達障害について』

～みんながってみんないい～

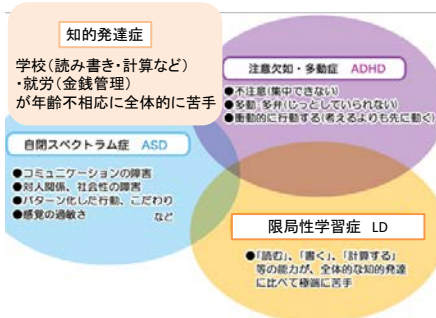
「知的障がい・発達障がいについて知って欲しいな
本人・家族の想い、お医者さんの想い……」

発達障害について

国際医療福祉大学病院 小児科医師
門田 行史氏



発達障がいの症状別分類



発達障がいと、風邪の時のマスク

風邪の場合:

咳が出て困っている人への対応:

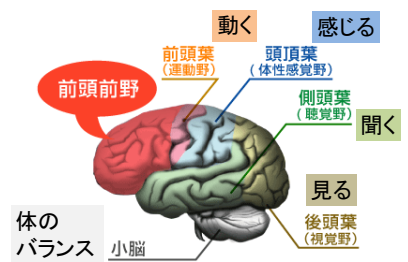
「せきを止めなさい」と言わないのはなぜ?

代わりに、
例1 マスクしましょうとアドバイスしたり、(本人が)しようと思う
例2 静かにしなければならない状況では咳が止まるまで別の部屋にいて収まったら戻る、など工夫する

→ 病気のだから症状が出るのは仕方ない、と思える。

発達障がいの症状に対するマスクって何だろう?という考え方。

脳力の住所をまとめてみると



知的障がい疑似体験

知的障がい啓発隊 カラフルBOX

本澤 恵美子氏

(那須塩原市心身障害児者父母の会会長)



カラフルBOXって??

知的障がい・発達障がいがある方の見え方・聞こえ方・感じ方などを楽しく体験してもらうことで、知的障がいの理解を深めてもらう活動をしている団体です。



理解の第一歩はお互いを知ること
お互いを
知ること
みんなが暮らしやすいまちに

知的障がい者・発達障がい者が地域で住みやすくなるには

少数の専門家より

多数の理解ある人

グループワーク「地域の中で一人でも多くの理解者を増やすためには？」



参加者の思い

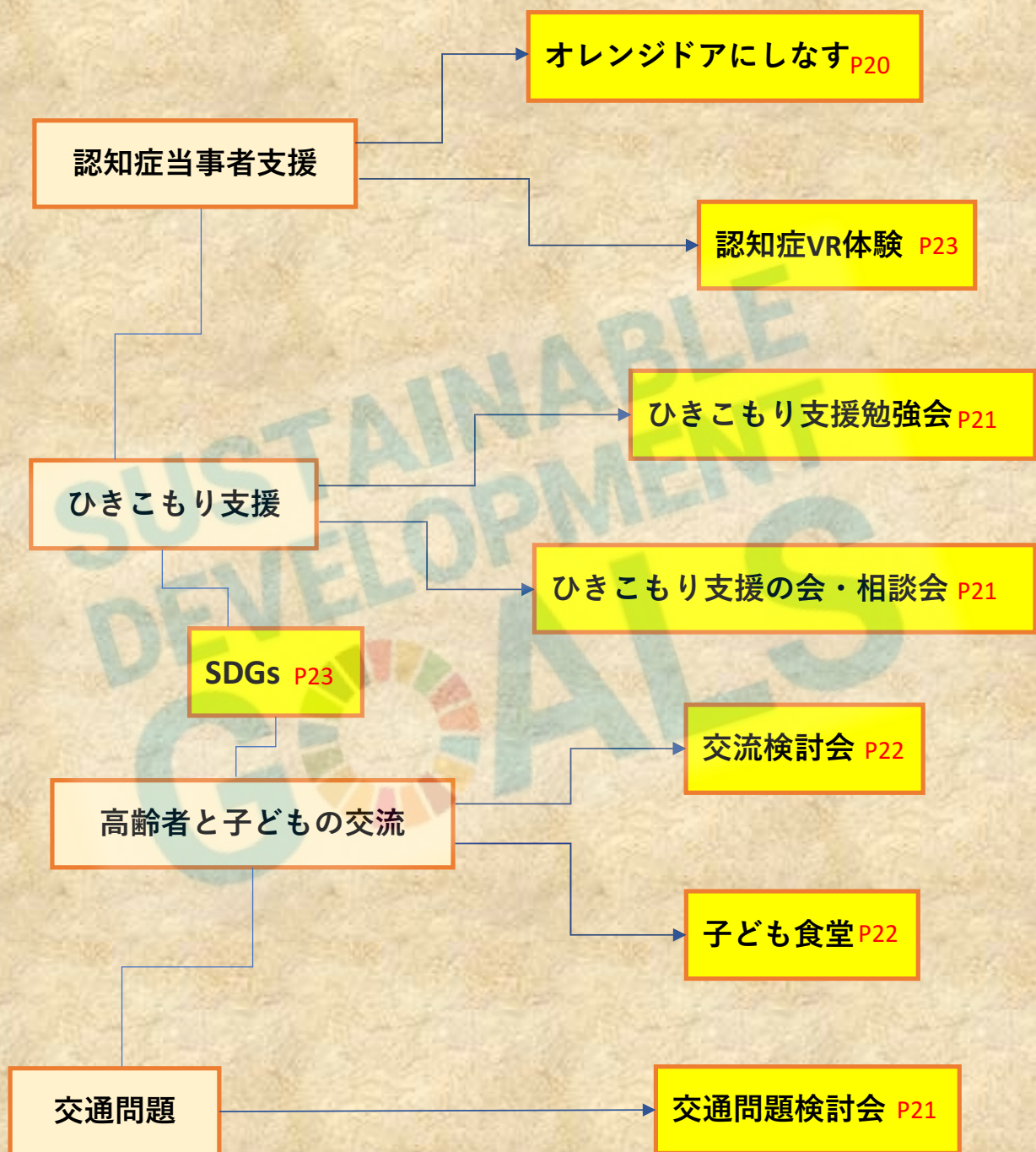
- ・正しい知識を身につけることで、声かけや手助けができるようになる。
- ・疑似体験を小中学校の福祉教育や地域の様々な場所で行い理解者を増やす。



第20回 令和2年3月19日

新型コロナウイルスの感染拡大を防止するため中止となりました。

参加者の思いから始まった活動



認知症当事者支援



オレンジドアにしなす

第4・7回でテーマに認知症を取りあげたところ、認知症の方の支援や居場所づくりが課題としてあがり、当事者・地域住民・専門職などが集まり検討会を重ねたところ、当事者がつくる「お互いさま」の居場所として、平成30年4月から『オレンジドアにしなす』が立ち上がりました。



立ち上げまでの流れ

- ・ 認知症当事者の会立ち上げ検討会①
平成30年2月1日
場所：ケアハウスもちが丘
- ・ 認知症当事者の会立ち上げ検討会②
平成30年2月20日
場所：健康長寿センター
- ・ 認知症当事者の会立ち上げ検討会③
平成30年3月6日
場所：健康長寿センター
- ・ オレンジドアにしなす、スタート！
平成30年4月3日
場所：健康長寿センター
- ・ 仙台のおれんじドア視察
平成30年4月28日
場所：宮城県仙台市



地域の課題を話し合う場
にしなすの会の中で
「認知症当事者の会があるとよい」
との意見が出ました

認知症当事者の会とは...
認知症の本人が集まり、誰にも
言えなかった気持ちをわちかう
ことで、前向きな活動につなげて
いくことを目的としています

西那須野を誰もが住みやすいまちにするために

認知症当事者の会の 立ち上げについて一緒に 考えてみませんか？

日時：平成30年2月1日（木）午後1時30分～

場所：ケアハウスもちが丘（住所 東赤田385-11）

興味のある方などなくても参加OK！
自由に話せるカフェに来る気持ちでお気軽にお越しください。
温かいお茶をご用意してお待ちしています。

参加申し込み・お問い合わせ先

那須塩原市社会福祉協議会 地域支援係
☎37-5122



もの忘れなどの不安を抱える方や認知症と診断されたご本人、その家族が
集う場所です。一歩踏み出して、「オレンジドア」を開けてみましょう。



ひきこもり支援

第10回で「生活困窮者が自立した生活をするために」というテーマで実施した際に、参加者から「ひきこもり状態になっている人への支援が必要」との意見が多くありました。

まずは現状を知ること・理解することが重要と考え、栃木県子ども若者・ひきこもり総合相談センターの中野氏を講師にひきこもり支援勉強会を実施しました。

ひきこもり支援勉強会

平成31年2月22日

講師：栃木県子ども若者・ひきこもり
総合相談センターポラリス

中野 謙作氏

場所：健康長寿センター



ひきこもり支援の会・相談会

その後、中野氏と関心のある市民や専門職でどのようなことができるか検討を重ね、令和元年12月から、ひきこもり状態にある人の家族、支援しているが悩みを抱える専門職が集える場所を開くこととなりました。



ひきこもり 支援の会・相談会

日時 毎月第1火曜日 18時～20時(時間内の出入りは自由です)

場所 特別養護老人ホーム栃の実荘 交流スペース(井口533-20)

対象者 ひきこもり状態の人の家族、支援の中で悩みや不安を抱える

教育・医療・福祉関係者、その他関心のある方

参加費 100円(お茶代)

メールでのお問い合わせも

お待ちしております

お問合せ：那須塩原市社会福祉協議会 地域支援係

TEL 0287-37-5122



宇都宮市にある『子ども若者・ひきこもり総合相談センターポラリス
☆とちぎ』と連携した会です。

内閣府が実施したひきこもり調査で、15歳～39歳の人が54万人、
40歳～64歳の人が61万人いると発表されました。那須塩原市内に
も悩みや不安を抱える方が多くいます。本人やご家族が相談できる場、
支援に悩みを持つ関係機関の人たちが相談できる場です。

お茶やコーヒーを飲みながら話せる空間ですので、お気軽におこくだ
さい。



交通問題



第12回、「交通問題」について実施した際に、グループワークから『交通問題の検討会を立ち上げ地域の課題を解決していきたい』というご意見が上がりました。第18回にて交通問題検討会の立ち上げを事務局から発表、メンバーの募集をさせていただきました。

令和2年2月10日に第1回を開催、今後も議論を重ね、地域の交通問題の解決を目指していきます。

交通問題検討会：不定期開催 18時～20時

場所：特別養護老人ホーム栃の実荘 交流スペース(井口533-20)

参加申し込みは社会福祉協議会・地域支援係までお願いいたします。(0287-37-5122)

高齢者と子どもの交流



第5回で子供の貧困をテーマに話し合った際に、「子どもの現状を知る機会が必要」「地域全体で子どもを見守る体制が必要」といった意見が多数あがり、地域で具体的に何ができるのかを話し合う検討会を開催しました。検討会で提案があり、高齢者施設のお祭りに地域の子どもたちが参加し交流することができました。

交流検討会の開催

- ・ 高齢者と子どもの交流検討会①
平成30年4月6日
場所：家族の家ひまわり西那須野
- ・ 高齢者と子どもの交流検討会②
平成30年5月24日
場所：家族の家ひまわり西那須野



こども“夢”くらぶ【こども食堂】

「高齢者と子どもの交流についての検討会」に参加した市民が『子どもたちが遊んだり、勉強したりできる居場所』をつくろうという共通の想いをもったことが始まりでした。

そこからは活動場所を探したり、協働できる人や団体と協議をしたりと多くの時間をかけ活動がスタートしました。テーマは「みんなで作って、食べて、遊んで、学ぼう」です。子育て世代は共働きや核家族化などの状況から親子で調理をしたりする時間がとれなかったり、宿題をみる時間を確保したりすることなどが難しい状況にあります。子どもたちを地域全体で育てたいという意識を持ちながら今後も活動していきます。

こども“夢”くらぶ
子ども食堂 はじめます

みんなで！楽しく！
お昼ごはんを作ったり、食べたり、遊びや勉強
もしましょー！！

【日 時】 令和2年3月29日(日)・4月5日(日)
10時～15時
都合のつく日にご参加ください

【場 所】 永田区西朝日公民館(西朝日町6-3)
(小沼クリニック後ろ)※裏面に地図があります

【参加費】 100円【保険料分です】

【対 象】 小学1～6年の児童 ※先着20名

【持ち物】 宿題など勉強できるもの、みんなで遊べるもの

【スタッフ】 日頃、子どもたちに勉強を教えている人や民生委員の
活動をしている地域の人たちが運営しています

お昼ごはんはカレーライス

【お申し込み・お問い合わせ先】
こども“夢”くらぶ
那須塩原市社会福祉協議会 地域支援係【担当：柴田】
お申込みのときは... 電話：0287-37-5122
①参加される日にち メールでもお申し込み できます
②参加される方の学年・お名前
③公民館までの交通手段(車か歩きかなど)
④緊急連絡先 を教えてください

NCN





『SDGs』勉強会

近年、SDGsの必要性・重要性が高まっており、これからの地域づくりにも必要であると考え、勉強会を企画しました。勉強会では、那須塩原市の取組みにも関係性があるということで、市長の講話から始まりました。つぎに、大高氏によるSDGsについての説明がありました。最後に参加者でグループワークを行い、SDGsの目標をどのように関連づけるかを話し合いました。



SDGs アンバサダー 大高 久尚氏



渡辺 みちたろう 那須塩原市長



認知症VR体験会



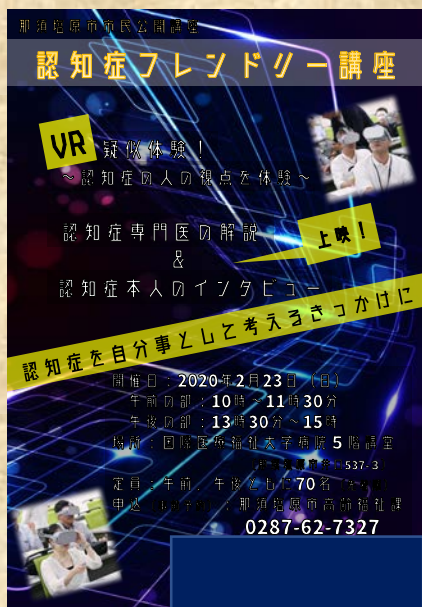
認知症フレンドリー講座

日時：令和2年2月23日

場所：国際医療福祉大学病院 講堂



朝日新聞社の講師の先生からの話やVR機器を使った認知症擬似体験・当事者のインタビュー動画やショートムービーなど盛りだくさんの内容でしたが、午前と午後で130名を超える参加者が集まりました。



「ひきこもりの人を支援している人が集う会(仮)」



日 時:毎月第1火曜日 18時~20時(時間内の出入りは自由です)
場 所:特別養護老人ホーム嶺の実荘(井口533-20)
対 象 者:ひきこもり状態の人の家族、支援の中で悩みや不安を抱える専門職、その他関心のある方
参加費:100円(お茶代)
お問合せ:那須塩原市社会福祉協議会 地域支援係 TEL 0287-37-5122

第10回では「生活困窮者が自立した生活をするために」というテーマで実施しました。この回では生活困窮者自立支援制度について学び、実際に事業を実施している社会福祉協議会から3つの事例提供があり、それを基に地域でできることについて話し合いました。その際に参加者から「ひきこもり状態になっている人への支援が必要」との意見が多くありました。まずは現状を知ること・理解することが重要と考え、今年2月に宇都宮市にある「子ども若者・ひきこもり総合相談センター」の中野理事長を講師とし、ひきこもり支援勉強会をただでも参加できる形で実施しました。その後は中野理事長と関心のある市民や専門職でどのようなことができるかを検討を重ねました。その結果、ひきこもり状態にある人の家族、支援しているが悩みを抱える専門職が集える場所を開くこととなりました。ひきこもりは若者だけでなく、中高年・高齢者の方でも増えてきています。不安の中では、なかなか進むことは難しいですが、多くの人たちが関わることで進むこと・見えてくることもあります。地域に暮らす人たちはそれぞれに不安や悩みを抱えています。少し話をするだけでも気持ちが楽になるかもしれません。一人では解決が難しくても、支え合える人たちがいれば良い方向に向かっていく可能性は高くなります。悩みや不安がある方、関心のある方など、お気軽にご参加ください。

今後のにしなすケアネット予定

第19回	第20回
日 時:令和2年1月23日(木) 13:30~	日 時:令和2年3月19日(木) 18:30~
場 所:国際医療福祉大学病院5階講堂	場 所:市役所西那須野支所
テーマ:『障害関係』	テーマ:『身元引受人』

【事務局】地域包括支援センターとのみ
住 所 〒329-2763 那須塩原市井口533-20
電話番号:0287-37-1683 FAX:0287-37-7688

「オレンジドアにしなす」

「オレンジドアにしなす」は、第4回に「認知症の方が地域で暮らすために」というテーマで話した際に、認知症当事者が集まれる場所があると良いといった意見が出ました。そこから関心のある人たちが検討会を行い、誕生したものです。認知症のカラーがオレンジであり、本人や家族が一歩踏み出し扉を開けることをイメージして「オレンジドア」と名付けました。認知症と診断された方だけではなく、もの忘れが気になってきた方、その家族の方などが集まっています。専門職もいるので、相談をすることもできます。時には、ボウリングをしたり、調理をしたり、お出かけをすることもあり、参加者のみんなでやっている場所です。

日 時:毎月第1・第3火曜日
場 所:健康長寿センター内 ボランティアセンター(南郷里5-163)
参加費:200円
お問合せ:那須塩原市社会福祉協議会 地域支援係
TEL 0287-37-5122



認知症をネガティブに感じない空間です。お気軽にご連絡、お越しください!!

(株)テトテ「食とまごころお届けサービス」

一区画にある障害者就労支援施設テトテ那須野が原事業所では今年5月から高齢者宅へお弁当などの食料を配達したり、買い物代行をするサービスを始めました。地域住民との話から以前より構想はあったようですが、第12回の「高齢者の運転免許返納問題を考える」をテーマとした時に、運転を続けなければならない理由を知ることが解決につながるのではないかとヒントを得て、一つの大きな理由である「買い物」を支援することを考えたそうです。サービスの内容は下記のとおりです。

対 象 者:西那須野地区在住の買い物にお困りの方
内 容:商品リストからご注文いただき、毎週水曜日にお届け
その他、1カ所500円での買い物代行
お問合せ:(株)テトテ TEL0287-36-7171

高齢化社会が進めば高齢者を支える人材が不足します。この事業は障がいのある方々を生かすことにもつながっています。また、商業関係との連携にもなっており地域全体の活性化にもなっています。誰もが住みやすいまちになること、誰もが役割を持っていることが、地域共生社会への大きなステップとなっています。



平成29年8月にスタートした、にしなすケアネットも早いもので1月28日に第18回を開催しました。今回は今までの開催実績と、にしなすケアネットから端を発したあるいはヒントを得た活動について紹介していきます。

開催回数	開催日	テーマ	参加人数
第1回	29.8.24	西那須野の歴史・自分の組織・自分の地域で何ができるか?	85
第2回	29.9.28	高齢者と障がい者の二人暮らしの親子が自分らしく生活するために	76
第3回	29.10.26	障害者制度と高齢者制度の勉強会	59
第4回	29.11.16	若年性認知症の方が地域で暮らすために	67
第5回	29.12.21	気づいていますか?子どもの貧困	60
第6回	30.1.25	制度のほかにいる方の認知症支援	53
第7回	30.2.22	地域の問題を考える 認知症で困る家族の支援	58
第8回	30.3.22	理想の地域社会を目指して	47
第9回	30.5.31	精神障害をお持ちの方が地域で生活するために	85
第10回	30.7.26	生活困窮者が自立した生活をするために	66
第11回	30.9.27	医療的ケアを必要とする子供が地域で生活するために	71
第12回	30.11.22	高齢者の運転免許返納問題を考える	45
第13回	31.1.24	在宅看取りの現状を考える	49
第14回	31.3.28	空き家問題を考える	40
第15回	1.5.30	認知症で徘徊をくりかえす高齢者	74
第16回	1.7.25	子どもの貧困 私たちにできること	67
第17回	1.9.30	老老介護	50

第8回の「理想の地域社会を目指して」をテーマとした時の意見を基にした、にしなすケアネットの目指すべき地味像です。

- ①『**支え合い**』がさかんなまち、にしなす
老若男女の住民同士の「支え合い」がさかんなまちを目指します!
- ②『**役割**』があるまち、にしなす
住民誰もが「役割」があり、「生きがい」があるまちを目指します!
- ③『**交流**』がさかんなまち、にしなす
商業、福祉、農業、自治会、医療、教育、行政等、様々な分野を超えた「交流」がさかんなまちを目指します!
- ④『**にぎわい**』があるまち、にしなす
経済の中心である商業や農業、市民活動等に「にぎわい」のあるまちを目指します!
- ⑤『**子ども**』が元気なまち、にしなす
まちの未来を担う「子ども」が元気なまちを目指します!



「医療的ケアを必要とする子ども・その家族のことを知る機会」

第11回では、「医療的ケアを必要とする子どもが地域で生活するために」をテーマとし開催しました。日本の医療技術は非常に高く、新生児医療技術も向上しています。出生時に疾患や障がいがあり、これまでもあれば命を落としていた赤ちゃんを救うことができるようになってきています。それによって、人工呼吸器や経管栄養、喀痰吸引などのケアがあれば自宅で生活することができる「医療的ケア児」が増えており、今後もさらに増えることが予想されています。しかし、まだまだ一般的な認知度が低い医療的ケア児のこと、その家族のことを知ってもらうために開催した回でした。

この回では、医療的ケア児の親、それに関わる訪問看護師、医療的ケア児が通う施設の運営者から実情や地域の中でできることについて話を聞きました。医療的ケア児のケアを担っているのは主に母親であり、その負担を軽くしていくためには行政や医療福祉の取組だけでは足りない部分があります。暮らしの中で直接接する機会がある地域の方々へ理解してもらうことが大切であることを共通認識しました。子どもへの直接的な支援は難しくても、家族への支援は誰にでもできることです。

この回に参加していた方をきっかけに、その後、民生委員・児童委員研修や大学、看護学校などで講演する機会ができました。多くの方に知ってもらおうことが医療的ケア児やその家族が暮らしやすい地域づくりに向けた重要なプロセスになっています。



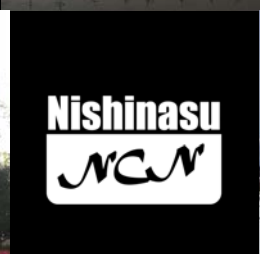
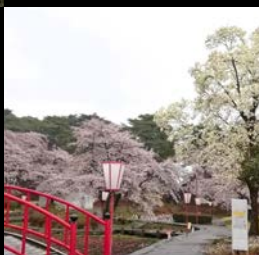
「子どもや地域の方が集える居場所づくり」

第5回の「気づいていますか?子どもの貧困」、第16回の「子どもの貧困 私たちにできること」として、この2回は貧困をテーマとしました。第5回はNPO キッズシェルターの森田理事長から関わっている子どもたちの実情について話を聞きました。第16回は市子ども・子育て総合センター、スクールソーシャルワーカー、生活困窮家庭やひとり親家庭の子どもへ学習支援をしている方から話を聞き、2回とも参加者たちが自分たちにできることを話し合いました。

このテーマで実施した後は、「高齢者施設の地域交流スペースなどを活用した居場所づくり」「空き家や自治会民館を活用した居場所づくり」などに関心のある地域の方々やNPOの方々と検討するところまで発展しています。全国的にも子ども食堂や多世代が集える居場所が地域内で増えて来ています。那須塩原市でも子どもだけでなく、多世代が集い交流できる居場所づくりを考えている地域の方と、NPOや企業などが連携することにより実現可能であると検討会を重ねることに実感しています。このような動きが子どもを地域全体で育てることを実現できる地域づくり、老若男女が集い、これにそれぞれ役割や生きがいを感じられる居場所づくりにつながっていきます。

【関心のある方はご連絡ください】
那須塩原市社会福祉協議会 地域支援係 TEL 0287-37-5122

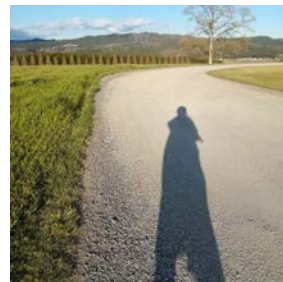
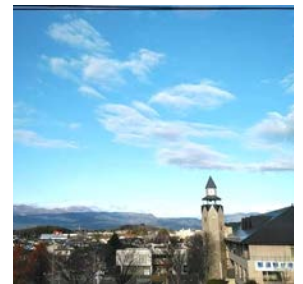






THE HISTORY OF
NISHINASU CARE NET
PRODUCE BY

NISHINASU CARE NET
facebook



SU NCN